

2021.4-6

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%) = (実現損益 + 未収収益増減 + 評価損益増減) / (元本平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益) × 100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

2021年度第1四半期運用状況

2021年4月の株式市場は、各種経済指標の改善や新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による経済正常化期待の高まりからNYダウの2.71%をはじめ主要国の株価は上昇しましたが、依然新型コロナウイルスの感染拡大が懸念された日本では日経平均株価で-1.25%、TOPIX（配当込み）では-2.84%と下落しました。

5月は、中旬にインフレ懸念の高まりを背景に米ハイテク株を中心に急落する局面がありましたが、その後は、新型コロナウイルスワクチン接種の進捗や米雇用正常化への期待の高まり、商品市況の回復などを受けNYダウが1.93%、日経平均は1.38%と小幅ながら上昇しました。

6月は、先進国で新型コロナウイルスのワクチン接種が進む中、企業業績の回復が株価の上昇要因となった一方、米FOMCの結果を受けた早期利上げへの懸念が下落要因となり、概ね横ばいで推移しました。

一方、内外の10年国債利回りは、期中小幅に低下（債券価格は上昇）しました。

このような市場環境の下、当基金の第1四半期における運用実績は、資産の約90%に相当するパッシブ資産が1.71%、オルタナティブ資産は1.27%、両資産を合わせた資産全体では1.66%となっております。

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	(注) 6.64	1.66				1.66
収益額(千円)	190,488	55,288				55,288
期中元本平均残高(千円)	2,868,495	3,336,595				3,336,595
期末運用資産額(千円)	3,191,713	3,582,937				3,582,937

(注) 収益率は修正総合利回り。2020年度決算上の時価ベース利回りは6.66%です。

1. 2021年度 第1四半期運用環境

【各市場の動き（4月～6月）】

国内債券：4月の10年国債利回りは、米長期金利低下が波及したほか、東京や大阪などで3度目の緊急事態宣言が発出される見通しとなり、リスク回避姿勢が高まったことなどから利回りは低下（債券価格は上昇）しました。5月は、月中を通じて極めて狭いレンジ内での推移が続きました。6月は、米長期金利の低下が波及し、一時約5カ月ぶりの低水準となる0.03%まで低下しましたが、月末にかけては上昇し、0.05%で終わりました。

国内株式：4月は、月前半は米国の景気回復への期待から高値をつけたもののその後は横ばいとなり、下旬にかけては東京や大阪で3度目の緊急事態宣言が発出される見通しとなり、リスク回避姿勢の高まりから下落しました。5月は、中旬にかけてインフレ懸念の高まりを背景に米ハイテク株が急落した流れが波及し下落しましたが、下旬にかけては、感染者数が減少に転じたことやワクチンの接種ペースが早まるとの期待が高まったことで投資家心理が改善し、上昇しました。6月は、英国やアジアで変異株の感染急拡大を受け、国内での感染再拡大への懸念が心理的な重荷となったことから、上値の重い展開が続き、日経平均は2万8700円台後半で終わりました。

外国債券：米国10年国債利回りは、4月はFRBが実質ゼロ金利政策を長期化するとの方針が浸透したことなどから国債を買い戻す動きが強まって利回りは1.74%から1.63%に低下しました。5月は、インフレ懸念が高まる中、利回りが一時急上昇しましたが、下旬にかけては、FRB高官の量的金融緩和の早期縮小に否定的な発言などを背景に1.60%に低下しました。6月は、一時上昇する局面もありましたが、早期の利上げが景気減速を招くとの見方からリスク回避姿勢が強まったことで低下に転じ、1.47%で終わりました。

外国株式：米国株式は、4月は、経済指標の改善やワクチン接種の進展等を背景に主要株価指数は連日過去最高値を更新した後、下旬にかけては新興国での感染急拡大などを受け一進一退の値動きとなりました。5月は、インフレ懸念の高まりから一時下落する局面がありましたが、ワクチン接種の進展等を受けNYダウは3万4500ドル台まで上昇しました。6月は、早期の利上げ開始懸念などから下落に転じる場面もあり、月末は約3万4500ドルで終わりました。

◇参考指標

		2021年3月末	2021年4月末	2021年5月末	2021年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.12	0.09	0.08	0.05
	TOPIX配当込み (ポイント)	3,080.87	2,993.46	3,034.76	3,070.81
国内株式	日経平均株価 (円)	29,178.80	28,812.63	28,860.08	28,791.53
	米国10年国債利回り (%)	1.74	1.63	1.60	1.47
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	-0.29	-0.20	-0.19	-0.21
	NYダウ (ドル)	32,981.55	33,874.85	34,529.45	34,502.51
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	15,008.34	15,135.91	15,421.13	15,531.04
	ドル/円 (円)	110.50	109.30	109.40	110.99
為替	ユーロ/円 (円)	129.87	131.58	133.76	131.62

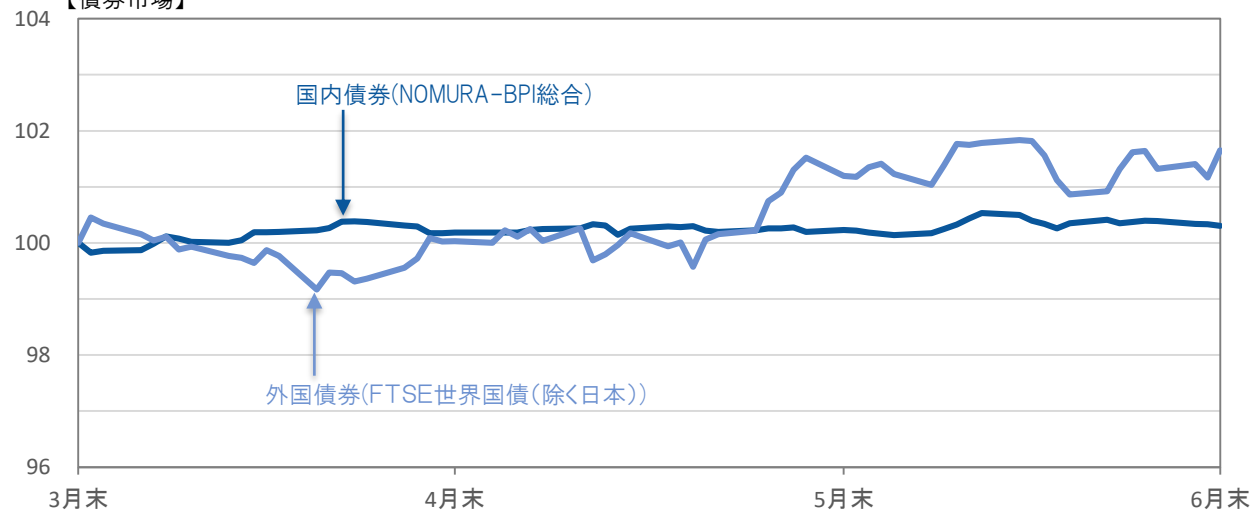
◇ベンチマーク収益率

	2021年4月～6月
国内債券 NOMURA-BPI総合	0.31 %
国内株式 TOPIX(配当込み)	-0.33 %
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	1.65 %
外国株式 MSCI-KOKUSAI	9.03 %

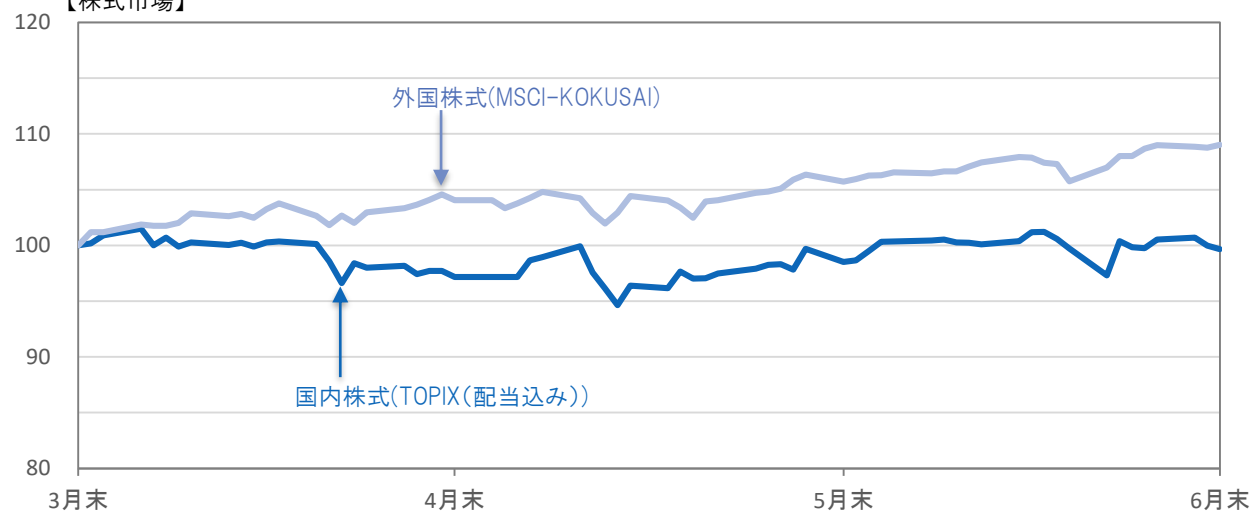
(注) ベンチマーク収益率は、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場インデックスの推移(2021年度 第1四半期) 3月末=100とした市場の動き

【債券市場】



【株式市場】



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	7.05	1.71				1.71
国内債券	-1.07	0.09				0.09
国内株式	35.16	2.47				2.47
外国債券	7.56	2.68				2.68
ヘッジ外債	3.38	1.09				1.09
外国株式	51.04	8.38				8.38
短期資産	-0.03	-0.01				-0.01

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	179,848	49,995				49,995
国内債券	-652	82				82
国内株式	32,823	3,748				3,748
外国債券	4,668	2,528				2,528
ヘッジ外債	25,366	12,278				12,278
外国株式	118,065	31,512				31,512
短期資産	-421	-152				-152

(2) オルタナティブ資産

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	3.30	1.27				1.27
※みずほ信託	4.48	0.00				0.00
第一生命	1.12	2.75				2.75
りそな銀行	4.03	1.33				1.33

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	10,639	5,293				5,293
※みずほ信託	5,420	0				0
第一生命	1,119	2,775				2,775
りそな銀行	4,100	2,518				2,518

(参考) オルタナティブ資産のプロダクト

みずほ信託：私募REIT（丸紅プライベートリート）※，第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

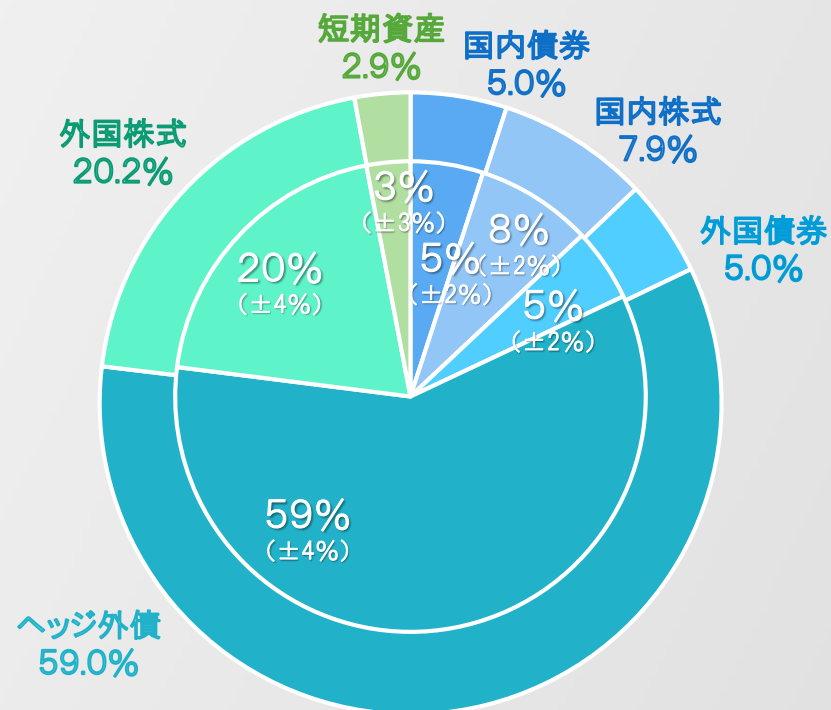
※みずほ信託銀行委託の私募REIT（丸紅プライベートリート）は半期ごと年2回の決算発表月（3月、9月）に基準価格の改定と分配金の確定が行われ、これによる基準価格の増減率と分配金利回りが基金サイドの収益率となります。したがって、3月、9月以外の月に収益率等は計上されません。

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖 離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	156,815	5.0%	5%	±2%	±0.0
国内株式	249,638	7.9%	8%	±2%	-0.1
外国債券	156,844	5.0%	5%	±2%	±0.0
ヘッジ外債	1,856,277	59.0%	59%	±4%	±0.0
外国株式	637,379	20.2%	20%	±4%	+0.2
短期資産	91,641	2.9%	3%	±3%	-0.1
合 計	3,148,594	100.0%	100.0%		—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。



内側: 基本ポートフォリオ (カッコ内は乖離許容幅)
外側: 2021年6月30日時点

(2) オルタナティブ資産

	資産額(千円)
みずほ信託	123,913
第一生命	103,893
りそな銀行	206,537
合 計	434,343

(3) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	3,148,594
オルタナティブ資産	434,343
合 計	3,582,937